

教育研究業績

2019年5月1日

氏名 徳山 美知代

学位 博士(学術)

研究分野	研究内容のキーワード	
臨床心理学・教育心理学	心理学的介入・親子関係・教育相談・対人関係・発達	
主要担当授業科目	カウンセリング特論・臨床心理実習・臨床心理学実習・	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例	(1)平成19年～平成25年、(2)平成26,27,28年12月、(3)平成26,27,28年6月	(1)平成19年～平成25年：千葉県子どもと親のサポートセンター中学校教員対象教育相談上級講座講師：プロジェクト・アドベンチャーのグループワーク実践、(2)「教育心理学」にて対人関係作りの方法としてグループワークを通じた授業内容を実践、(3)性格心理学の「特性論」の理解を体験的に理解するためにグループワークを実施
2 作成した教科書、教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価	(1)平成27年9月、(2)平成27年3月、(3)平成28年3月	学生による授業評価アンケート項目平均値5点満点(1)乳幼児心理学:4.21、(2)学校カウンセリング:4.9、教育心理学:4.14、(3)教育心理学:4.28などのいずれも大学の平均値を上回る値であった。

4 実務の経験を有する者についての特記事項		
千葉県子どもと親のサポートセンター 一中学校教育相談研修	平成 19 年 6 月 22 日	アドベンチャー・グループ・アプローチの手法を用いた教育相談の体験学習の講師（平成 25 年 6 月 21 日まで毎年）
千葉県教育庁生涯学習課不登校児童生徒等宿泊研修事業講師	平成 19 年 10 月 9 日	不登校児童に対するグループアプローチを行った。
東京都社会福祉協議会児童部会研修会講師	平成 19 年 10 月 30 日 平成 21 年 10 月 26 日	児童養護施設におけるグループワークの実践、アタッチメントの視点によるケアについて報告した。
子ども希望財団児童福祉施設職員研修会講師	平成 20 年 1 月 20 日 平成 22 年 1 月 12 日	児童養護施設におけるケアに関する研修会講師を担当した。
茨城県福祉相談センター児童相談所 児童福祉施設 心理部門研修会講師	平成 20 年 11 月 14 日	アタッチメントの視点によるケアに関する研修会講師を担当した。
子どもの虐待防止センター研修会講師	平成 23 年 3 月 8 日	児童養護施設における生活における相互尊重の対人関係に着目した“性教育”の意義と実践に関する研修会
千葉大学環境健康フィールド科学センター カレッジリンク 講師	平成 23 年 11 月 5 日 平成 23 年 12 月 10 日 平成 24 年 7 月 14 日	生涯学習における心理教育としてアタッチメントの視点の知識と体験学習による研修会講師を担当した。
東京都児童相談センター治療指導課 幼児グループ開発プロジェクト	平成 23 年 4 月	プロジェクトスタッフとして平成 25 年 3 月まで関わる。
千葉県子どもと親のサポートセンター スクールアドバイザー	平成 23 年 4 月 1 日	スクールアドバイザーとして登録し、要望があれば研修会講師として出向している（現在に至る）。
柏市保健福祉課ゲートキーパー養成講座	平成 24 年 6 月 7 日 6 月 21 日, 7 月 19 日	ゲートキーパー養成のための継続した体験学習による研修会講師を担当した。
栃木県中央児童相談所施設処遇援助事業研修会講師	平成 24 年 10 月 19 日	「虐待を受けた子どもの支援」としてアタッチメントの視点によるケアに関する研修会を行った。
茨城県筑西児童相談所児童施設心理療養担当職員研修会	平成 25 年 3 月 8 日	虐待を受けた子どもの理解と援助—解離とアタッチメント視点から一実践編を担当した
国立武蔵野学院全国研修指導者養成研修講師	平成 26 年 9 月 4 日	「ケースカンファレンス」に関する知識と実践に関する研修会講師を担当した。
静岡県子育て支援員研修（専門研修）講師	平成 28 年 11 月 22 日 平成 29 年 11 月 9 日	社会的養護下の子どもの心理的特徴と関わり方に関する研修会講師を担当した。
アタッチメントセミナー講師	平成 29 年 3 月 4 日、 11 月 25 日、平成 31 年 1 月 26 日	全国ネットのセミナーにおいて、「社会的養護における関係支援」を担当した。
日本カウンセリング学会東関東支部 H29 年度公開研修会	平成 30 年 1 月 21 日	「アタッチメント（愛着）に関連する問題とその支援」のテーマで研修会を行った。
栃木県児童養護施設研修会	平成 30 年 2 月 23 日	児童養護施設における里親支援に関する研修会講師

<p>5 その他</p> <p>①文部科学省教職課程認定委員会の 教員審査</p> <p>②文部科学省教職課程認定委員会の 教員審査</p>	<p>平成 25 年 1 月</p> <p>平成 26 年 4 月</p>	<p>静岡大学情報学部のカリキュラム改定に伴う教職課程認定において、「教育相談」の教員（非常勤講師）としての認定を受ける。</p> <p>静岡福祉大学の新学部設立に伴う教職課程認定において、「乳幼児心理学」「保育教育相談」「親子心理療法」の教員（兼担教授）としての認定を受けた。</p>
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
<p>1 資格、免許</p> <p>臨床心理士</p> <p>臨床発達心理士</p> <p>公認心理師</p>	<p>平成 15 年 4 月 1 日</p> <p>平成 23 年 4 月 1 日</p> <p>平成 31 年 2 月 5 日</p>	<p>公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会臨床心理士資格取得（10424）</p> <p>一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構臨床発達心理士取得（03157）</p> <p>公認心理師登録証(12225 号)</p>
<p>2 特許等</p>		
<p>3 実務の経験を有する者についての 特記事項</p>		
<p>4 その他</p>	<p>(1)平成 19 年 6 月(2) 平成 25 年 3 月(3)平成 平成 26 年 3 月(4)平成 23 年 4 月(5)平成 27 年 3 月</p>	<p>(1)美祢社会復帰センター受刑者矯正教育プログラムマニュアル作成、(2)柏市自殺予防ゲートキーパー養成研修テキスト:千葉大学環境健康フィールド科学センター・柏市（著者）徳山郁夫・徳山美知代・佐藤順子・高梨美奈、(3)コミュニティアプローチ——自殺予防ゲートキーパー養成講座副読本—（著者）徳山郁夫・徳山美知代・佐藤順子、(4)生活のなかで“性”を教える—児童養護施設における性教育— CAP ニュース、78, 8-12、(5)里子-里親の「アタッチメントに焦点をあてたプログラム」実施の手引き ISBN:ISBN978-4-900742-46-8</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 わかりやすい犯罪 心理学 ト라우マ(心 的外傷)と非行・犯罪	共著	平成22年9月 30日	文化書房博文社	トラウマの絆と非行・犯罪にいたる可能性 について脳の生理的機能や気質と養育環 境の要因の視点から示唆し、反復する犯罪 との関連について示した。また、トラウマ 反応の回復の中核は安全感の確立であり、 養育者との安定したアタッチメントに加 えて、養育環境を安全なものにする社会的 な支援の重要を述べた(分担 pp.168～ 170)。(編著) 安齋順子・小嶋秀吾(著者) 小宮信夫・大江由香・菅原歩・岡坂昌子・ 菊池春樹・梅野充・西村香・井口藤子・荒 川歩・徳山美知代
2 やさしくわかる 社会的養護3—子ども の発達・アセスメン トと養育・支援プラン —第6章ケースカン ファレンス	共著	平成25年5月 20日	明石書店	社会的養護にある児童養護施設や里親に 対して、より良い子どもの支援のために、 ケースカンファレンスの目的や意義、あり 方や活用方法等の理解を促すことをねら いとして、構成した。(分担 pp.117～129)。 (編著) 相澤仁・犬塚峰子(著者) 菅原 ますみ・増沢高・藤林武史・ <u>徳山美知代</u> ・ 他17名
3 アタッチメン ト・ベイスト・プログ ラム	共著	平成27年7月 21日	岩崎学術出版社	博士論文である児童養護施設の支援と治 療としてのアタッチメント・ベイスト・プ ログラム(ABP)の開発の基になった理論 的背景、プログラムの概要について博士論 文の一部を記述した。プレイセッションの 理論背景では、身体を用いたグループアプ ローチによる安全感の構築を目指してい ることが特徴である(分担 pp.158-163)。青 木豊(編) 乳幼児虐待のアセスメントと支 援(著者) 森田展彰・ <u>徳山美知代</u>
4 性教育、アタッチ メントに関連する支 援、グループアプロ	共著	平成28年10 月27日	岩崎学術出版社	児童養護施設において実践してきた子ど もの支援に関する内容と方法について示 した(分担 pp.91-95, pp.114-152,

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
<p>チ、学校における支援、性に関する援助・基本編性教育、児童への接し方の練習、援助者・職員のメンタルヘルス、チーム援助</p> <p>5 第3章 児童養護施設におけるプレイグループアプローチ</p>	共著	平成29年4月1日	創元社	<p>pp.221-226, pp.233-240)。森茂之(編著)「社会による子育て」実践ハンドブック—教育・福祉・地域で支える子どもの育ち(著者) 菊池春樹・北川恵・<u>徳山美知代</u>・森田展彰</p> <p>児童養護施設において継続してきたグループワークについて、目的、構成員、期間、経過、課題について記述した。回数をかさねるうちに、次第に子ども間に肯定的な発言やサポートが見受けられるようになったこと、否定的な対人関係を取りがちな子どもにも肯定的変化が見られた。課題としては、施設内でのグループワークは、心理療法と生活治療の中間的な存在となるため、職員との連携が欠かせないこと、日常生活での様子や状態を把握した上でグループ活動を行うことが望ましいことが示された(分担 pp.110-122)。(監修者) 一般社団法人日本集団精神療法学会編集委員会(编者) 藤信子・西村馨・桶掛忠彦「集団精神療法の実践事例30」(著者) <u>徳山美知代</u>・他24名</p>
<p>6 第8章 社会的養護における関係支援</p>	共著	平成29年11月20日	誠信書房	<p>社会的養護下の子どものアタッチメントの課題について記述し、支援について記述した。児童養護施設入所児童、施設内のチーム援助、里親—里子の関係性構築の有用性と課題についてアタッチメント・ベイスト・プログラムの実践から示唆した。特に児童養護施設の子どもの変化から、内的作業モデルの可変性を示唆した(分担 pp159-171)(編) 北川恵・工藤晋平「アタッチメントに基づく評価と支援」(著者) 徳</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
<p>(学術論文)</p> <p>1 児童養護施設の被虐待児童とケアワーカーを対象としたアタッチメント・ベイスト・プログラムの開発 (博士学位論文未公開)</p> <p>2 プロジェクトアドベンチャー (PA) による信頼と自己概念の肯定的変化</p> <p>3 プロジェクトアドベンチャー (PA) を用いたプログラムにおける受容的環境とチャレンジ</p>	<p>単著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>平成21年9月30日</p> <p>平成13年3月30日</p> <p>平成14年3月</p>	<p>筑波大学</p> <p>千葉大学 教育実践研究第9巻</p> <p>筑波大学教育研究科 「教育相談研究」 第40巻 (査読付き)</p>	<p>山美知代・他11名</p> <p>児童養護施設の被虐待未就学児童とケアワーカー(CW)を対象とするアタッチメントに焦点をあてたプログラムを開発した。CW に対するコンサルテーションと心理教育、プレイセッションで構成されている。子どもとCWとセラピストの三者で行うプレイは、身体に働きかける方法を取り、また、不安と安心感に焦点をあてて進行する。児童に対しては、安定したアタッチメントの促進とアタッチメント障害とトラウマ反の軽減、ケアワーカーに対する養育スキルの向上が示唆された。(著者) <u>徳山美知代</u></p> <p>大学の野外活動実習で取り入れた2泊3日のプロジェクトアドベンチャー(PA)における参加者の変化を信頼感、状態自己評価、20 答法から検討した。信頼感尺度では、参加者に肯定的な変化があった (p185-195)。(著者) 徳山美知代・田辺肇・徳山郁夫「共同研究につき本人担当分抽出不能」</p> <p>プロジェクトアドベンチャー(PA)プログラムでは、グループの発達段階と参加者の関与のレベルによって適切なアクティビティを選択することがファシリテーターにとって重要な点である。本研究では筆者は、参加者の知覚されたリスクと不安・葛藤・怖れ、参加者間の信頼に焦点をあてて検討した。その結果、信頼の形成と受容、知覚されたリスク、不安・葛藤・怖れのレベルに合わせた活動の選択が参加者に気づきを促す要因であることが示唆された</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
4 不登校生徒対象 のアドベンチャー プログラムにおける参 加者の変化と社会的 リスク	共著	平成 16 年 12 月 31 日	日本カウンセリング学 会誌「カウンセリング研 究」第 37 卷 (査読付き)	(pp.1-12)。共同研究につき本人担当分抽出 不能。(著者) <u>徳山美知代</u> ・田辺肇 不登校生徒対象のアドベンチャープログ ラムの参加者の変化について、中学 2 年生 女子の事例を挙げ、社会的リスクといった 視点から検討した。社会的リスクを伴うグ ループ課題において、参加者は、受容的環 境の中で仲間を心身の安全を委ねて達成 し、自信を得るとともに積極的に活動にコ ミットするようになった。課題と個人の社 会的リスクに焦点をあてたファシリテー ターの課題選択が有効な介入となること を示唆された(pp.379-387)。共同研究につ き本人担当分抽出不能。(著者) <u>徳山美 知代</u> ・田上不二夫
5 プロジェクトアド ベンチャー(PA)の手 法を用いたプログラ ムの活動特性と参加 者の変化のモデル化	共著	平成 17 年 2 月	日本学校メンタルヘル ス学会紙「学校メンタル ヘルス」第 7 卷 (査読付き)	プロジェクトアドベンチャープログラ ムの活動と課題に含まれる諸特性や構成要 素とそれに対応する参加者の変化のモデ ルを作成した。モデル化によってチャレン ジ状況での活動に向けて受容的環境とい った素地が重要であり、その基盤が続く活 動や構成要素による参加者の変化を引き 起こすことが明らかになった。モデルは、 内発的動機づけ理論の枠組みと類似して おり、自律性と関係性を育成するものであ ること、また、身体活動を伴うことから、 現実的な自己概念が形成されることが示 唆された(pp.53-63)。共同研究につき本人 担当分抽出不能。(著者) <u>徳山美知代</u> ・ 田辺肇
6 児童養護施設にお ける治療的養育の手 段としてのグループ アプローチ	共著	平成 19 年 12 月 25 日	日本子どもの虐待防止 学会学術雑紙「子どもの 虐待とネグレクト」第 9 巻第 3 号	児童養護施設における心理的援助として 実施した、治療的養育の手段としてのグ ループアプローチを報告し、検討を加えた。 施設内が安心感、安全感を抱ける受容的環

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
7 児童養護施設の被虐待児童とケアワーカーのアタッチメントに焦点をあてたプログラムの有効性の検討	共著	平成21年7月30日	(査読付き) 日本子どもの虐待防止学会学術雑誌「子どもの虐待とネグレクト」第11巻第2号 (査読付き)	境となるために、相互尊重を基本とした小学生対象のプレイグループと中高生対象の人間関係に焦点をあてた性教育プログラムのグループを実施した。その結果、仲間同士を受け容れる場面も見られるようになった。いずれもケアワーカーと連携をとって実施したことから、治療的養育の手段としてのグループアプローチの有効性が示唆された(pp.362-372)。共同研究につき本人担当分抽出不能。(著者) <u>徳山美知代</u> ・森田展彰 児童養護施設の被虐待児童とケアワーカーのアタッチメントを促進することで、アタッチメントの問題とトラウマ反応の減少を目的とし手開発されたプログラムの有効性を検討した。約半年間、10回のセッション終了後に前半介入群と待機群との比較をしたところ、前半介入群のみに無差別的友好態度とトラウマ反応の減少が有意に認められた。大舎制児童養護施設の児童に、アタッチメント行動を安定させる可能性、トラウマ反応の減少といったプログラムの有効性が示唆された(pp.230-244)。共同研究につき本人担当分抽出不能。(著者) <u>徳山美知代</u> ・森田展彰・菊池春樹・丹羽健太郎・三鈿泰代・数井みゆき
8 児童養護施設の被虐待児童とケアワーカーを対象としたアタッチメント・ベイスト・プログラム—ケアワーカーに対する有効性の検討—	共著	平成22年11月30日	日本子どもの虐待防止学会学術雑誌「子どもの虐待とネグレクト」第12巻第3号 (査読付き)	児童養護施設の被虐待児童とケアワーカーを対象としたアタッチメント・ベイスト・プログラムによる有効性をケアワーカーの側面から検討する。質問紙調査、内省報告、発話分析による検討を行なった結果、育児自己効力感に有意な上昇は認められなかったが、プログラムで推奨した関わ

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
9 児童養護施設におけるコミュニティ心理臨床アプローチ—学校とのチーム援助を中心に	共著	平成 21 年 12 月	茨城キリスト教大学紀要, 43, 85-95.	り方の増加、アタッチメントに関する理解の高まり、子どもの感情や行動を理解し、適切な応答をするといった感性の高まりが示唆された (pp.398-410)。共同研究につき本人担当分抽出不能。(著者) <u>徳山美知代</u> ・森田展彰・菊池春樹 児童養護施設の児童に対して、学校教育における適切な人間関係形成や集団適応といった児童の発達課題、及び教育課題への援助を目的として、学校、児童相談所、児童養護施設が連携して援助を行った。その一事例を報告し、チーム援助の有効性とその要因について検討した。(著者) <u>徳山美知代</u> ・森田展彰「共著者の一部助言より作成。本人担当分抽出不能」
10 日本の児童福祉施設における被虐待児童の持つアタッチメントの問題に対する援助	共著	平成 22 年 4 月	日本子どもの虐待防止学会学術雑誌「子どもの虐待とネグレクト」第 12 巻 1 号 (査読付き)	第 15 回学術集会の国際シンポジウム「虐待とアタッチメント」にて発表したアタッチメント・ベイスト・プログラムの内容と有効性を論文とした。安定したアタッチメントがトラウマの回復につながることに関する理論的背景を示した上で、事例報告を行なった。事例報告では、介入前後のアタッチメント障害尺度と乳幼児トラウマ反応尺度の前後比較を行い、介入に伴う子ども、およびケアワーカーとの関係性の変化と照らし合わせて検討した (pp.49-51)。共同研究につき本人担当分抽出不能。(著者) 森田展彰・ <u>徳山美知代</u>
11 東京都児童養護施設の心理療法担当職員の現状と課題	共著	平成 22 年 4 月	日本子どもの虐待防止学会学術雑誌「子どもの虐待とネグレクト」第 12 巻 1 号 (査読付き)	東京都の児童養護施設における心理療法担当職員の配置状況、および職務内容に関するアンケート調査を施行した。平成 15 年度調査と比較して心理療法担当職員の配置数や常勤職の増加が認められ、介入内容としては、個別面接について、生活場面

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
<p>1 2 アタッチメント・ベイスト・プログラムのモデル作成—児童養護施設の被虐待未就学児童とケアワーカーを対象として—</p>	共著	平成 24 年 1 月	静岡福祉大学紀要第 8 号（査読なし）	<p>面接、子どもへの心理テスト、アフターケア、職員の心のケアに関与している心理療法担当職員が増加した。さらに、職員へのコンサルテーション、処遇会議への出席、他機関との連携も実施しており、治療的側面に加えて、コミュニティ心理臨床的援助として機能している状況が示唆された(pp.150-154)。共同研究につき本人担当分抽出不能。(著者) <u>徳山美知代</u>・若松亜希子・鈴木美代・小池麻耶・遠藤啓子・岩崎光太郎・須賀美穂子</p> <p>児童養護施設の被虐待未就学児童とケアワーカー(CW)を対象に開発したアタッチメント・ベイスト・プログラムにおける児童と CW の変化に関するモデルを作成した。安心感・安全感を与える受容的環境が重要であること、CW の養育スキルの向上が複数の要素に影響を与え、子どもの問題行動の減少につながり、そのことで保育に関する効力感が高まること、体験が繰り返されることで子どもと CW の変化が深化する可能性が示唆された(pp.95-108)。共同研究につき本人担当分抽出不能。(著者) <u>徳山美知代</u>・森田展彰</p>
<p>1 3 生涯学習社会の“まちづくり” 柏の葉キャンパスタウンの事例から</p>	共著	平成 24 年 3 月	千葉大学教育学部研究紀要第 60 巻（査読なし）	<p>柏の葉キャンパスタウンの開発に際して、公民学が住民のライフスタイルを想定するところから 21 世紀の“まちづくり”という課題に取り組んできた。“まちづくり”における生涯学習社会の実現というビジョンの必要性と柏の葉キャンパスタウンにおける具体的な取り組みの経緯を論じた(pp.295-300)。共同研究につき本人担当分抽出不能。(著者) 徳山郁夫・<u>徳山美知代</u></p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
14 体験学習型キャリア支援プログラムの開発	共著	平成25年1月	静岡福祉大学紀要第9号（査読なし）	プロジェクト・アドベンチャーの手法を用いた体験学習型キャリア支援プログラムを開発した。研究1では文科省モデルと経済産業省モデルの要素に相当するプログラムのモデルを作成した結果、プロセス分析が本プログラムの特性として挙げられた。研究2では、プログラムを実施し、参加者の発話からモデルの要素に対応する発語数を抽出し、有効性の検討を行った。モデルの要素に関する発語数が多数認められ、有効性が示唆された(pp.7-17)。共同研究につき本人担当分抽出不能。(著者) <u>徳山美知代</u> ・徳山郁夫
15 地域・学校コミュニティモデルによる自殺予防ゲートキーパー養成に関する検討	共著	平成26年1月	静岡福祉大学紀要第10号（査読なし）	国の自殺対策の一つであるゲートキーパー養成について、地域・学校コミュニティの受容的環境を形成することが、自殺予防につながると考え、本稿では、ゲートキーパー養成の地域・学校コミュニティモデルとして実施した体験学習による研修の要素と概要を報告した。若者層のいじめ・メンタルヘルスの向上に加えて、発達・教育の視点から教員対象の研修に相互尊重の関わり方の学びを取り入れる必要性が示唆された (pp.1-7)。共同研究につき本人担当分抽出不能。(著者) <u>徳山美知代</u> ・徳山郁夫
16 里親と里子に対するアタッチメントに焦点をあてた支援に関する検討——介入プログラムにおける里親の内省報告の分析より——	共著	平成27年1月	静岡福祉大学紀要第11号（査読なし）	里子と里親のペアを対象として、月に2回計10回のアタッチメントに焦点をあてたプログラムを実施した。参加した里親の介入プログラムへの内省報告を分析したところ、1歳10か月と3歳8か月の里子の里親からは、安定したアタッチメントの形成を促す感性の向上に関する内容が、6歳の里子の里親からは、アタッチメントの

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
17 アタッチメント理論に基づく介入——社会的養護下のビデオ育児法とアタッチメント・ベイスト・プログラム	共著	平成29年1月	静岡福祉大学紀要第13号（査読なし）	<p>視点からの問題行動の理解と対応に関する内容が抽出された。また、セラピストの役割については、子どもの行動の分析・解説、対応方法の助言、里親の支えやカウンセリングの内容が抽出され、里親にとってのアタッチメント対象としてのセラピストの位置づけが示された（pp1-7）。共同研究につき本人担当分抽出不能。（著者）<u>徳山美知代</u>・田辺肇</p> <p>社会的養護下における、アタッチメント理論に基づく介入として、海外でその有効性が確かめられているビデオ育児法とアタッチメント・ベイスト・プログラムを挙げ、その要素と方法、効果を示し、検討した。いずれのプログラムも有効であり、介入として用いられることが望ましいが、我が国の調査体制の慣習等により、介入研究は難しいことから、これらのアタッチメントを促進する方法や要因を日常生活や心理臨床の場に取り入れることが子どもにとって有用であり、特に乳幼児期といった早期の介入の必要性が示唆された（pp25-34）。共同研究につき本人担当分抽出不能。（著者）<u>徳山美知代</u>・近藤清美・田辺肇</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
18 「藤守の田遊 び」に関する検討	単著	平成30年2月	静岡福祉大学第14号, 1-8	静岡県志太郡大井川町藤守の氏神鎮守大井八幡において平安時代から伝わる田楽であり、焼津市の国重要無形民俗文化財の「藤守の田遊び」というお祭りについて、「田遊び」全般の歴史的背と内容を挙げた上で、「藤守の田遊び」の独自性として、地域性と特徴、静岡県に伝わる田遊びとの差異の視点から検討した。さらに祭りと個人の精神状態について、カイヨワの祭りにおける精神状態や肯定的な解離、プロー体験といった視点から検討を加えた。(著者) 徳山美知代
19 里親養育でのか かわり (その他) (辞典)	単著	平成31年3月	チャイルドヘルス22(3) (査読付き)	里親と里子の支援について、アタッチメント・ベイスト・プログラムによる介入の一事例を挙げて論じた(pp45-48)。
1 子ども心理辞典	共著	平成23年5月	一藝社	母親、人工栄養、母親の養育態度、バビンスキー反射、ひとりっ子、ファザリング、ほぼよい育児、マザリング、マタニティブルー、未熟児、ボウルビィ(Bowlby)の11用語を担当した。(編集代表) 谷田貝公昭・原裕視 (著者) 徳山美知代・他121名
(翻訳) 第2部2ペアレンティ ング・スキル	共著	平成26年10 月	金剛出版	アメリカで開発され、効果が示されているトラウマ焦点化認知行動療法のマニュアルを日本語版に翻訳した。その療法の親の子どもに対するかかわり方を行動療法の視点から説明した内容を翻訳した(pp96-104)。「子どものトラウマと悲嘆の治療—トラウマ・フォーカスと認知行動療法マニュアル」ジュディス・A・コーエン、

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(学会発表) ＜ポスター発表＞				アンソニー・P・マナリノ、エスター・デ ブリンジャー（著）（翻訳）白川美也子・ 菱川愛・富永良喜（訳者） <u>徳山美知代</u> ・他 16名
1 プロジェクトア ドベンチャーを用い た不登校対象プログ ラムによる効果一宮 城県教育委員会の取 り組み一	単著	平成 14 年 8 月	日本カウンセリング学 会第 35 回大会 東京	不登校生徒対象に行ったアドベンチャー プログラムによる参加者の変化を生徒の 内省報告、親への質問紙から検討した。抄 録集（p131）
2 児童養護施設に おける未就学児童と ケアワーカーのアタ ッチメントを促進す るプログラムの開発 と有効性の検討	共著	平成 18 年 12 月	日本子ども虐待防止学 会第 12 回学術集会みや ぎ大会	アタッチメントを促進するプログラムを 開発し、試行した結果をアタッチメントの 安定得点、アタッチメント障害得点、トラ ウマ反応、問題行動の尺度から検討した。 抄録集（p19）（著者）森田展彰・ <u>徳山美知 代</u> ・丹羽健太郎・三鈷泰代・数井みゆき
3 児童虐待防止対策 の政策評価一評価指 標及び対応期間の役 割分担に関する調査	共著	平成 18 年 12 月 8 日	日本子ども虐待防止学 会第 12 回学術集会みや ぎ大会	児童虐待防止対策について、関連諸機関の 職員や住民に対して評価の指標や妥当性、 児童虐待の対応を行う適切な機関等のあ り方についての調査を実施し、新たな政策 評価を検討した。抄録集（p45）（著者）和 田一郎・森田展彰・菊池春樹・ <u>徳山美知代</u>
4 児童養護施設にお ける未就学児童とケ アワーカーのアタッ チメント関係を促進 するプログラムによ る養育者の変化	共著	平成 19 年 12 月	日本子ども虐待防止学 会第 13 回学術集会三重 大会	児童養護施設入所中の不適切な養育を受 けた未就学児童を対象に開発したアタッ チメントに焦点をあてたプログラムにお ける養育者のスキルの変化を検討した。抄 録集（p45）（著者） <u>徳山美知代</u> ・森田展彰
5 アドベンチャー	共著	平成 20 年 11	日本カウンセリング学	大学生対象に行ったアドベンチャープロ

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
プログラムによる参加者の変化—自尊心と特性的自己効力感に着目して		月	会第 41 回大会東京	グラムによる参加者の変化について、自尊心と特性的自己効力感の視点から検討した。抄録集 (p165) (著者) <u>徳山美知代</u> ・徳山郁夫
6 美祢社会復帰促進センター・フィジカルエクササイズの開発	共著	平成 21 年 11 月	第 45 回日本犯罪学会総会発表「犯罪学雑紙」第 76 巻	PFI 方式による美祢社会復帰センターの教育プログラムとして運動を通して心身に働きかけるフィジカル・エクササイズを開発し、その効果について検討した (p86)。(著者) <u>徳山美知代</u> ・森田展彰・中谷陽二
7 児童養護施設における治療的養育としての心理的援助—アタッチメントに焦点をあてた介入を中心として	単著	平成 22 年 7 月 17 日	第 13 回日本コミュニティ心理学会大会東京	児童養護施設において、実施しているアタッチメントに焦点をあてた会議とその効果について、報告した。発表論文集 (pp. 148-149) (著者) <u>徳山美知代</u>
8 治療的養育を目指す児童養護施設の取り組みと評価の試み—相互尊重の基の性教育プログラムを中核とした介入—	共著	平成 23 年 12 月 3 日	日本子ども虐待防止学会第 17 回学術集会いばらき大会	児童養護施設で継続実践している相互尊重の人間関係構築を基盤とする性教育プログラムについて、児童養護施設のケアワーカーとともに発表した。抄録集 (p228) (著者) <u>徳山美知代</u> ・片山知美・金子真澄・高橋奈津子・井上綾香・佐藤順子・恵勇太・竹内忍・根本将太・尾形美耶子
9 アタッチメントに焦点をあてた介入—児童養護施設の被虐待年少児童を対象として—	共著	平成 23 年 12 月 3 日	日本子ども虐待防止学会第 17 回学術集会いばらき大会	児童養護施設の幼児、小学校 1 年生を対象に実施したアタッチメントに焦点をあてたプログラムによる子どもの変化と要素について、検討した。抄録集 (p184) (著者) <u>徳山美知代</u> ・菊池春樹・大橋早苗・田辺志麻・又吉由佳里・森田展彰
10 体験学習型キャリア支援プログラム	単著	平成 24 年 10 月 28 日	日本カウンセリング学会第 45 回大会千葉県	大学生を対象にアドベンチャーの手法を用いたキャリア支援プログラムを構築し、

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
の開発に関する予備 的研究				その有効性について検討を加えた。発表論 文集 (p186) (著者) <u>徳山美知代</u> ・徳山郁 夫
1 1 児童養護施設に おける相互尊重を基 盤としたグループワ ークの実践—グルー プでの遊びや課題を 用いて—	共著	平成 24 年 12 月 8 日	日本子どもの虐待防止 学会第 18 回学術集会高 知りょうま大会	児童養護施設にて小学生を対象に継続し て実践している相互尊重を基盤にしたグ ループワークの内容と子どもの変化につ いて、質的に検討した。抄録集 (p235) (著 者) 片山知美・ <u>徳山美知代</u> ・恵勇太
1 2 児童養護施設の 幼児に対するアタッ チメントを中核とし た包括的援助—介 入・チーム援助と家庭 復帰のための母子へ の介入—	共著	平成 24 年 12 月	日本子どもの虐待防止 学会第 18 回学術集会高 知りょうま大会	児童養護施設において実践している幼児 とケアワーカー対象のプログラムとチー ム援助に加えて、ケアワーカーが同じ構造 でのプログラムを実親と子どもを対象に 実施し、家庭復帰につなげたケースにつ いて報告した。抄録集 (p234) (著者) <u>徳山 美知代</u> ・大橋早苗
1 3 東日本大震災後 の子どもに対する支 援としての“森・水キ ャンプ”に関する検討	共著	平成 25 年 9 月 1 日	日本カウンセリング学 会第 46 回大会埼玉	東日本大震災後に実施した“森・水キャン プ”の実践内容と有効性について検討し た。抄録集 (p156) (著者) <u>徳山美知代</u> ・ 鈴木正貴
1 4 児童養護施設の 児童とケアワーカー を対象としたアドベ ンチャープログラム による関係性の変化	単著	平成 25 年 12 月 14 日	日本子ども虐待防止学 会第 19 回学術集会長野	児童養護施設入所児童とケアワーカーを 対象に実施した、アドベンチャーの施設を 用いたプログラムによる児童とケアワー カーの関係性の変化について、事例を通し て検討した。抄録集 (p257) (著者) <u>徳山 美知代</u> ・森田展彰・難波克己
1 5 A case study for foster mother and foster child with attachment issues.	共著	平成 26 年 3 月 29 日	European Society for Trauma and Dissociation 2014 Conference Copenhagen	科研費研究である里親と里子に対するプ ログラムによる一事例を取り上げ、里子 の変化について報告した。小学校 1 年生里子 の介入時に認められたアタッチメントに 関連する問題行動は軽減した。抄録集

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
16 Dissociation and structure of trauma history measured by the CATS(Child Abused and Trauma Scale)Japanese version : Reanalysis using nine datasets of college-age samples.	共著	平成26年3月 29日	European Society for Trauma and Dissociation 2014 Conference Copenhagen	(p63) (著者) <u>Michiyo Tokuyama</u> , Hajime Tanabe 子どもの虐待体験とトラウマにかんする測度の解離に関する構造を大学生を対象に再調査し、再検討した。抄録集 (p64) (著者) Hajime Tanabe, Kazufumi Gotou, Yoshikazu Fukui, <u>Michiyo Tokuyama</u>
17 日本語版 DES(Dissociative Experience Scale)による解離性把握の拡張	共著	平成26年5月	第13回日本トラウマティックストレス学会福島	日本語版解離体験尺度による解離性の構造について検討し、拡張して把握できることが明確になった。抄録集(p112) (著者) 田辺肇・後藤和文・福井義一・ <u>徳山美知代</u>
18 A case study of programs for foster mother and foster child with issues related to attachment.	共著	平成26年6月 16日(発表)	World Association of Infant Mental Health 14th World congress Edinburgh	科研費研究である里親と里子を対象としたアタッチメントに焦点をあてたプログラムの介入の一事例、3歳の里子に関する経過と有効性について発表した。抄録集(p156) (著者) <u>Michiyo Tokuyama</u> , Hajime Tanabe
19 リフレクティブ機能と安定したアタッチメントによる不適切な養育環境が解離に与える影響の緩和	共著	平成26年9月 12日	日本心理学会第78回大会京都	不適切な養育環境にあった者にみられる解離傾向の発達において、安定したアタッチメントやメンタライゼーション/R機能が一定の役割を担っていること、簡明な自由記述を求め、それを判定することでR機能の測度を得るアプローチの可能性が示唆された。抄録集 (p96) (著者) <u>徳山美知</u>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
20 A case study of an intervention focusing on attachment disturbances between a foster mother and a foster child with attachment disturbances.	共著	平成 26 年 9 月 9 月 17 日	20th International Child Abuse and Neglect Nagoya	代・田辺肇・上野永子・後藤和文 科研費研究による里親と里子に対するアタッチメントに焦点をあてたプログラムを実施し、1歳10か月の里子の変化と里親のストレスの両側面から有効性が示された。抄録集(p75) (著者) <u>Michiyo Tokuyama</u> , Hajime Tanabe
21 Reflective function and attachment as a key for later development of pathological dissociation from their adverse childhood environment.	共著	平成 27 年 4 月	32nd Annual conference International Society for the Study of Trauma and Dissociation, Buena Vista.	昨年度、発表した「リフレクティブ機能と安定したアタッチメントによる不適切な養育環境が解離に与える影響の緩和」に関する研究にさらに調査対象者数を加え、また、質的分析の方法に修正を加えて再分析した。前発表と同様に生育環境が不適切であり、かつ安定型アタッチメントスタイルを有しない群のみで高解離傾向が認められた。抄録集(pp. 37-38) (著者) Hajime Tanabe, <u>Michiyo Tokuyama</u> , Noriko Ueno, Kazufumi Gotow
22 トラウマフォーカスト認知行動療法(TF-CBT)の均てん科の試み(第2報)TF-CBTを適用した症例の分析	共著	平成 27 年 9 月	第 56 回日本児童青年精神医学会総会横浜	トラウマフォーカスト認知行動療法がどのような症例に TF-CBT が適用されたのであろうか、トラウマ症状診断とうつなどの精神疾患、および虐待の種類との関連等を調査した上で、適用した症例について、その経過と有効性、課題について検討した。(著者) 鈴木太、白川美也子、大原天青、水島栄、紀平省悟、福地成、森田展彰、加茂登志子、服巻智子、藤田純一、田口めぐみ、河田祐子、 <u>徳山美知代</u>
23 Usefulness of a	共著	平成 28 年 5 月	15th World Congress of	児童養護施設の6歳児に対して、行動に着

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
based on infant-care worker attachment in child and family service facilities: positive changes in children' s behavior toward their biological parent		30 日	the World Association for Infant Mental Health, Prague Czech Republic.	目したアタッチメントの視点による介入 を行ったところ、問題行動の減少とともに 母親に対する行動も肯定的に変化した。表 象の変化とも考えられる。抄録集 (p 86) (著者) <u>Michiyo Tokuyama</u> , Nobuaki Morita
2 4 Comprehensive sex education program promoting independence of children in residential care home: Support to prevent abuse at institutions and resolve sex-related issues.	共著	平成 28 年 7 月 26 日	The 31st International Congress of Psychology, Yokohama	児童養護施設において、実施している対人 関係に焦点をあてた性教育の要素を挙げ、 東京都の施設において実施されている性 教育の実施状況について検討した。回答を 得られた施設は専門機能強化型施設とい った専門性が高い施設であった。性教育は 実施しているもののその方法論や職員の 教育の難しさ、時間が取れないこととい った問題が明示された。抄録集 (p308) (著 者) <u>徳山美知代</u> ・田辺肇
2 5 対人苦手意識 に影響を与える 2 つ の要因 —セルフモニタリン グと自尊感情の関連 —	共著	平成 30 年 9 月	日本心理学会第 82 会大 会仙台国際センター 9 月 25 日—27 日	セルフモニタリングといったメタ認知機 能は対人苦手意識に関しなかった。抄録集 (p26) (著者) <u>徳山美知代</u> ・小川翔大・原 田邦江
2 6 大学生の愛着 スタイルが過剰適応 に及ぼす影響	共著	平成 30 年 9 月	日本心理学会第 82 会大 会仙台国際センター 9 月 25 日—27 日	大学生においてアンビヴァレントとい った不安定した愛着スタイルを持つもの は過剰適応になりやすいことが明確にな り、安心感の積み重ねが適切な対人関係形 成につながることを示された。抄録集 (p24) (著者) 小川翔大・ <u>徳山美知代</u>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
<p><シンポジウム></p> <p>1 いじめ・体罰を防ぎ、自律を促す関係性構築—アドベンチャープロセスの視点から—</p>	共著	平成 25 年 9 月	日本カウンセリング学会第 46 回大会埼玉	いじめ・体罰・施設内虐待は、いずれもその裏側には支配関係が存在している。これらの問題解決のプロセスには支配関係とは異なる相互尊重の関係性を学習すること、そのことによる安心感・安全感の確保が必要である。アドベンチャーアプローチを適用している児童養護施設・学校・スポーツ指導の立場から検討した。抄録集 (p58) (著者) <u>徳山美知代</u> ・鈴木正貴・池上正・徳山郁夫
<p>2 Psychological treatment for children in foster family—Attachment-focused interventions for foster parent and children.</p>	共著	平成 26 年 9 月 9 月 15 日	20th International Child Abuse and Neglect Nagoya	日本における里親と里子の支援に関するシンポジウムにて、科研費で実施している里親と里子に対するアタッチメントの視点からの介入の有効性について、里子の行動の変化と里親のストレスの視点から発表した。 抄録集 (p47) (著者) <u>Michiyo Tokuyama</u> , Satoru Nishizawa
<p>3 これからの施設養育にもとめられるもの：国際的に評価される実践モデルを目指して</p>	共著	平成 26 年 11 月 25 日	日本子ども虐待防止学会第 22 回学術集会大阪	国際的に要請されている「根拠に基づく実践」の実現と海外の施設養護実践との連携を目標に今後の施設養護に活かすためのモデルづくりに向けて議論した。演者：森茂起・福井義一・田中隆志・細井勇、指定討論者：徳山美知代 抄録集 (p 116)
<p><教育研修></p> <p>1 アタッチメントに焦点をあてた介入—児童養護施設の被虐待年少児童を対象として—</p>	共著	平成 23 年 12 月 3 日	日本子ども虐待防止学会第 17 回学術集会いばらき大会	アタッチメントに焦点をあてた介入とチーム援助について、効果とともに方法をワークショップ形式で実施した。日本子ども虐待防止学会第 17 回学術集会いばらき大会抄録集 (pp. 168-169)。(著者) <u>徳山美知代</u> ・菊池春樹・大橋早苗・田辺志麻・又吉由佳里・森田展彰

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
2 「遊び」を通したグループワークは被虐待体験や発達障害のある子どもと親にどのように活かされるかーアタッチメントに焦点をあてた介入の枠組みを応用して	共著	平成 24 年 12 月 8 日	日本子どもの虐待防止 学会第 18 回学術集会高 知りょうま大会	遊びによる介入の有効性について、病院、 児童相談所、児童養護施設といった立場で 実践した内容について発表し、検討した。 日本子どもの虐待防止学会第 18 回学術集 会高知りょうま大会抄録集 (pp. 170-171) (著者) 徳山美知代・菊池春樹・岩井幸祐・ 森田展彰・大橋早苗
3 プロジェクト・アドベンチャーの手法を用いたグループアプローチ	共著	平成 25 年 12 月 14 日	日本子ども虐待防止学 会第 19 回学術集会信州 大会	プロジェクト・アドベンチャーの手法につ いてワークショップ形式の教育研修を通 して理解を深め、教育・児童養護施設・ク リニックでどのように応用可能であるか を検討した。日本子ども虐待防止学会第 19 回学術集会信州大会抄録集 (p174) (著者) 徳山美知代・菊池春樹・恵勇太・関智子
(報告書)				
1 子どものトラウマ研究 虐待による長期トラウマの影響に関する評価と介入・治療	共著	平成 19 年 4 月	厚生労働科学研究費補 助金(こころの健康科学 研究事業)分担研究報告 書	児童養護施設に入所中の幼児対象にトラ ウマ症状を改善するプログラムの開発と 有効性の検討を行った。プログラムは、心 理教育、子どもとケアワーカーとセラピス トの三者でのプレイとその前後のコンサル テーションで構成される 10 回のセッシ ョン、ホームワークで構成されている。プ レイの内容はアドベンチャー理論を参考 に楽しく遊ぶことを基本としている。開発 したプログラムの内容が示された参考資 料部分を担当した (pp. 69-72)。 (著者) 森 田展彰、分担執筆者：徳山美知代・丹羽健 太郎・松葉大直・数井みゆき
2 フリークライミングを通した親子の絆作りに関する研究	共著	平成 23 年 2 月	平成 22 年度笹川科学研 究助成実践部門報告書	里親と里子、実親と子どもを対象に、フリ ークライミング体験による親子の変化に ついて検討した。インタビュー調査と内省

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
3 里親と里子に対するアタッチメントに焦点をあてたプログラムの開発	共著	平成 27 年 5 月	科学研究費助成事業(平成 24 年度～平成 26 年度：課題番号：2430748)研究成果報告書	<p>報告、質問紙による調査の結果、子どもの積極性、意欲、自信、粘り強さの高まりが示唆された。子どもが養育者に対して素直に要求や意見を言えるようになり、養育者と子どものコミュニケーションの頻度の高まりや養育者の子どもに対するイメージの肯定的な変化が示された。(著者) <u>徳山美知代</u></p> <p>里親と里子を対象としたアタッチメントに焦点をあてたプログラムを作成し、その有効性の検討を行った。4組の里親と里子を対象に測度と内省報告による検討を行った結果、里子の問題行動の減少と里親のストレス軽減などに肯定的な変化が見られた。</p> <p>(著者) <u>徳山美知代</u>・田辺肇</p>